

白河高校同窓会報

発行所
 郵便番号 961-0851
 福島県白河市南登り町54
 白河高校同窓会
 ☎0248-24-1116

発行人
 鈴木雅文
 編集委員長
 堀川哲雄
 (南古楓堂堀川印刷所)



新たな伝統に向けて

校長 白石文夫

同窓生の皆様、日頃より本校教育にご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。

今年4月の着任以来、地域の基幹校として本校に寄せられる期待や、同窓生の皆様方の母校に対する熱い思いに驚かされるとともに、現場を預かる者として身の引き締まる思いがしています。

日常生活のあらゆる場面で、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う影響が発生しています。感染拡大防止と経済活動の両立は今なお、様々な意見があり正解が見通せず手探りの対策が続いています。学校現場にあっては、何よりも生徒の安全安心を

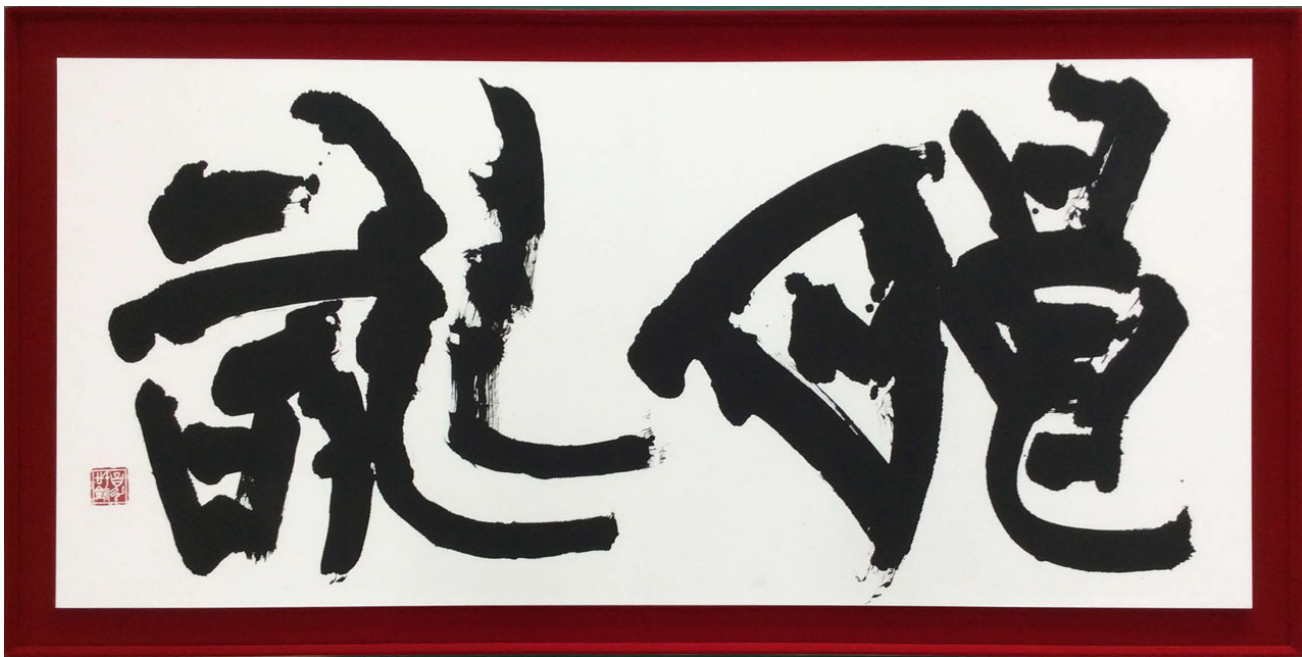
果に繋がったものと考えています。

様々な課題が指摘され、迷走の観すらある今年度の大学入試についても、生徒自身は、それぞれが今なすべきことを見失うことなく、自身の進路希望実現に向けた最大限の努力を続けてきています。部活動においても、多くが大会を見送る中であって、それでも次の機会、そして自分自身への挑戦を忘れることなく、毎日の練習に汗を流す姿が見られます。

こうした中、私たちは今年も、地域社会と連動し、地域から愛される学校になろうとの目標を掲げました。2年後に迎える百周年に向け、皆様のお力を借りながら、これまでの伝統を繋ぎ、新たな白河高校を創造していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

第一にしながら、教育活動を展開しています。臨時休校や部活動の大会中止など、文武に目標を掲げ熱心に取り組んで来た生徒には、特に厳しい現実が突きつけられました。このような中であっても、生徒たちはくじけることなく、学校生活に本気で取り組んでいます。

今春卒業生の大学入試においても、東北大や北海道大などの国立大学をはじめ、数多くの合格者を輩出することができました。多様化する入試に臨むにあたって、生徒たちは教職員の指導を素直に受け入れ、さらに自主性を持って、最後まで粘り強く戦ってくれたことが好結



(75cm×163cm)

「朗 詠」

遠藤昌弘(碩堂) (高30)



創立100周年記念事業に向けて

同窓会長 鈴木雅文(高28)

昨年の同窓会報で、二〇二二年に、本校が創立100周年を迎え、その為の創立100周年記念事業実行委員会準備会を発足させた事までをご報告させていただきました。

予定では本年五月の同窓会総会にて、概要を説明させていただいた後、本年六月に、実行委員会設立総会を行う予定で準備を進めてまいりました。しかし、このコロナ禍により、同窓会総会は、同窓会会則の第16条を適用して中止とし、常任理事会の決議をもって専決処分として、皆様には次の総会にて承認を得ることとさせていただきます。設立総会も同様に一度は延期とさせていただきます。しかし100周年は、刻一刻と近づいて来ており、このままでは現在予定をしている事業が出来なくなる恐れから、緊急を要する事とし、九月二日に学校、後援会、保護者と教師の会の関係者と共に、「福島県立白河高等学校創立100周年記念事業実行委員会」を立

ち上げました。約百名の皆様の出席を得て、決議事項全てが承認されました。主なものとして、記念事業は学校・生徒より要望の多い「登龍会館の改修」「学校バスの購入(リース)」「記念式典・記念講演会・祝賀会の実施」「100周年記念誌の発行」「同窓会名簿の作成」(既刊)、「それらを実施するために募金を募る。但しコロナ禍にあるので、開始時期については後日、募金部会を開いた上であらためて皆様にお願いを申し上げます」等の事が決定されました。上記の内容は、100周年のホームページでもご覧いただけますのでご確認頂きたいと思えます。今後も、同窓会報や各学年の常任理事を通じて発信してまいりますのでご協力の程、お願い申し上げます。 本会も今後も支部復活等に力を入れ、会員交流に力を注いでまいりますので、各地区にてそのような動きがあればご一報いただければ幸いです。

創立100周年記念事業実行委員会のホームページ開設 <https://shirakawa-h-100th.com/>

～コロナ感染拡大による令和2年度同窓会総会中止の経緯、並びに役員会・常任理事会での決議事項について～

コロナウイルス感染拡大により、役員会・常任理事会の開催も危ぶまれましたが、令和2年度同窓会総会の開催の可否、さらには創立100周年記念事業についての具体的な取り組み等を決めなくてはならないことから、4月17日(金)白河高校登龍会館会議室で第3回役員会及び常任理事会を開催いたしました。会長、副会長、本校校長以下22名の出席者により次のことが審議されました。

議案(1) 令和元年度事業報告ならびに決算報告について原案通り了承されました。(決算報告につきましては次項をご参照ください。)

議案(2) 令和2年度事業計画案ならびに予算案について原案通り了承されました。(予算案につきましては次項をご参照ください。)

※なお、予算案の収入減につきましては生徒数が減少しているため入会金が減っています。減額分につきましては、同窓会基金より充当させていただきます。支出につきましては、消費税の増額により郵送費が増加し、さらには会員数の増加に伴う会報発行数が増えていることから会報発行費を増額しております。また、各支部の復活や活動助成のために、支部育成費を増額しております。

議案(3) 令和2年度同窓会総会について
まず担当学年の幹事の方々より、依頼していただきました講師の方々からのご意向を伺いました。岡田美智男氏(高30)。豊橋からの移動は困難で講演は厳しいと判断している。遠藤昌弘氏(高30)。東京在住のため、移動は控えたい、講演中止が妥当である。なお、講演の準備に要した費用については同窓会からの支払いは不要であるとの申し出が両氏からありました。との報告がなされました。

令和2年度同窓会における4月17日の役員会での決議事項は以下の通りです。

① 新型コロナウイルスの感染拡大による全国的な緊急事態宣言の発令に伴い、令和2年5月16日(土)に予定していた同窓会総会、講演会、懇親会は全て中止とする。

② 総会に上程する予定としていた議案のうち、令和元年度決算報告並びに令和2年度予算案については同窓会会則16条を適用し、本日の常任理事会の承認決議をもって会長の専決処分とし、令和2年度同窓会で上程する予定の議案(1)・議案(2)は、令和3年度に開催される同窓会総会であらためて承認をいただく。

③ 令和2年度の事業計画案については、既に中止が決定した校内マラソン大会のようにコロナウイルス感染拡大状況に応じた延期や中止を適宜判断する。

④ 総会・講演会中止の告知方法については、開催案内を送付した会員の方に開催中止のハガキを送付する。また、福島民報、福島民友、夕刊たなぐら、夕刊矢祭、夕刊はなわ、東白日報に中止の広告を掲載する。

次に、4月17日の役員会での協議事項は以下の通りです。

議案(4) 創立100周年記念事業について
① これまでの経過と今年度の取り組みについて
② 実行委員会規約および組織について

③ 実行委員会・顧問・専門部会・事務局について
実行委員会の役員案は(同窓会、保護者と教師の会、学校)からの推薦案をまとめて全体の役員案とする。また、歴代の同窓会長には顧問としての参加協力をお願いしたい。

④ 予算案について、有賀秀晴氏(高20)【同窓会監査】並びに金沢博信氏(高20)【同窓会庶務】より寄付金にかかる税金控除についての説明が行われました。

⑤ 今後の予定について
新型コロナウイルスの感染拡大による全国的な緊急事態宣言の発令に伴って、6月に予定されていた創立100周年記念事業実行委員会設立準備会および創立100周年記念事業実行委員会設立総会については改めて日程調整を行うことを後援会、保護者と教師の会に申し入れる。

(5) その他
事務局より更に多くの会員からの協力を得ることを動案して、同窓会会則の一部変更等を検討したい旨の提案がなされ今後の検討課題となりました。

また、同窓会支部の復活、100周年事業募金の振り込み口座について、さらには常任理事、ならびに理事の名簿を再確認するとともにご逝去された同窓生についても知りうる限り確認いたしました。最後に事務局より、令和2年度白河高校年間計画および令和元年度大学合格状況、さらには異動による新任の同窓会教員を報告して同窓会役員会・常任理事会が閉会となりました。

以上、報告いたします。

令和元年度 白河高等学校同窓会会計決算書

令和 2 年度 白河高等学校同窓会予算書

収入の部 (単位 円)

項 目	元年度予算額	決算額	備 考
繰 越 金	988,460	988,460	
入 会 金	865,200	864,000	720 名
賛 助 金	2,000,000	2,167,392	
同窓会基金	510,000	510,000	
雑 収 入	40	11	名簿販売・利息他
合 計	4,363,700	4,529,863	

収入の部 (単位 円)

項 目	2 年度予算	前年度予算比	備 考
繰 越 金	914,068	△ 74,392	
入 会 金	847,200	△ 18,000	
賛 助 金	2,000,000	0	
同窓会基金	660,000	150,000	基金より取り崩し
雑 収 入	732	△ 692	利息
合 計	4,422,000	58,300	

支出の部 (単位 円)

款 項 目	元年度予算額	決算額	備 考
総 務 費	646,400	627,553	
事 務 費	30,000	10,188	事務用品他
通 信 費	100,000	163,157	郵便料金等
会 議 費	120,000	101,630	常任理事会他
総 会 費	100,000	89,400	総会諸経費
旅 費	60,000	68,910	東京登龍会参加旅費
慶 弔 費	20,000	12,872	香典・弔電
交 際 費	216,400	181,396	広告掲載費
教育助成費	465,000	423,104	
学校図書充実費	150,000	150,000	
体育文化助成費	80,000	66,400	祝看板代
卒業記念品助成費	85,000	56,704	印鑑代補助
進路対策費	150,000	150,000	
事業活動費	2,472,000	2,565,138	
支部育成費	70,000	54,000	支部総会諸経費
会報発行費	2,200,000	2,301,778	会報印刷代、送料他
事業費	1,000	0	
研修費	1,000	0	
登龍賞基金	200,000	209,360	登龍賞楯・刻印他
基 金	0	0	
同窓会基金	0	0	
予 備 費	780,300	0	
予 備 費	780,300	0	
合 計	4,363,700	3,615,795	
次期繰越金	0	914,068	

支出の部 (単位 円)

款 項 目	2 年度予算	前年度予算比	備 考
総 務 費	670,000	23,600	
事 務 費	20,000	△ 10,000	事務用品他
通 信 費	150,000	50,000	郵便料金等
会 議 費	120,000	0	常任理事会他
総 会 費	100,000	0	総会諸経費
旅 費	60,000	0	東京登龍会参加旅費
慶 弔 費	20,000	0	香典・弔電
交 際 費	200,000	△ 16,400	広告掲載費
教育助成費	440,000	△ 25,000	
学校図書充実費	150,000	0	
体育文化助成費	80,000	0	祝看板代等
卒業記念品助成費	60,000	△ 25,000	印鑑代補助
進路対策費	150,000	0	
事業活動費	2,602,000	130,000	
支部育成費	100,000	30,000	支部総会諸経費
会報発行費	2,300,000	100,000	会報印刷代、送料他
事業費	1,000	0	
研修費	1,000	0	
登龍賞基金	200,000	0	登龍賞楯・刻印他
基 金	0	0	
同窓会基金	0	0	
予 備 費	710,000	△ 70,300	
予 備 費	710,000	△ 70,300	
合 計	4,422,000	58,300	

チキンラーメンのくぼみ



岡 田 美智男 (高30)

皆様、ご無沙汰しております。高校を卒業し、かれこれ四十年以上、本当にあつという間でした。宇都宮と仙台で学生時代を過ごし、N T T 基礎研究所、国際電気通信基礎技術研究所 (A T R) に勤務した後、現在は豊橋技術科学大学の教員をしております。

子どもの頃は「機械いじり」の毎日でした。目覚まし時計、ラジオ、バイクなどを分解しては、また組み立て直す。これは唯一の遊びだったのです。町の外れに「ゴミ捨て山」があり、四〜五人と連れ立ち、よく通いました。「カラスのような子らだなあ」と呼ばれながら、目当ては廃棄されたテレビ、ラジオの中の真空管、ダイオード、バリコンなど、これらの電子部品が宝物に思えたのです。

数分解あたりで躓きました。なんとか大学に入学し、待望の電子工学を学ぶことに。ただ時代は大きく変化し、トランジスタや L S I、マイコンの時代となり、パソコンを手に入れ、プログラムを夢中で組んでいました。N T T や A T R の研究所で取り組んだのは「音声対話インタフェース」というスマートスピーカーなどにつながる技術です。その後、音声から言語、コミュニケーション、認知科学へと興味を広がり、今は、コミュニケーション研究の道具として、学生たちとロボット作りを楽しんでいます。

の、子どもたちの手助けを引き出しながらゴミを拾い集めてしまう(ゴミ箱ロボット)、モジモジしながらティッシュをくばろうとする(アイ・ボーンズ)など、他力本願なロボットをたくさん手掛けています。



なぜ(弱いロボット)の研究なのか。例えば、チキンラーメンのくぼみのようなものをのせると黄身がすっぽり収まり、まわりの縁で白身をしつぷりときゃच्चするのだとか。卵にくわえ、きざみネギやノリをのせて、オリジナルの味を楽しむ。ちよつとした工夫で、味もどんどんアップする。そんな楽しみ方もありそうです。それはベースにチキンラーメンのしつぷりした味があつてこそ。一緒

だせるのは、このコラボレーションのなせる技でしょう。「工夫した甲斐があつた!」「なんだか幸せ!」という感じを引き出す上で、このくぼみがカギとなつていきます。卵やネギ、ノリなど、すべてを提供するのはではない、むしろわずかな手間や工夫する余地を残しておく。このことが私たちの潜在的な強みや工夫を引きだし、生き生きとした幸せな気持ちを生みだすようです。

完全に調理してもらい「利便性」を選ぶのか、それとも余白を残してもらい「なんだか幸せ!」な状態に浸るのか。後者の価値観は、利便性・効率性に対して、「自分が生かされ、生き生きとした幸せな状態」という意味で「ウェルビーイング」と呼ばれます。ポイントとなるのは、自律性、有能感、関係性。チキンラーメンのくぼみでいえば、それを利用するかしないかを自由に選べること、工夫を重ねることです。得られる有能感、それとチキンラーメンと自分の工夫とのコラボレーションなどが、わたしたちの「ウェルビーイング」をアップさせるというわけです。テクノロジーは、私たち人を本当に幸せにしているのか。利便性を追求してきたはずなのに、ちっとも満足した気分になれない。「〇〇してくれるシステム」と「〇〇してもらう人」と、その役割の間に線が引かれた途端に、「もっと、もっと!」と相手に対する要求水準をエスカレートさせてしまう。「もっと素早く、もっと正確に、もっと静かに!」と、私たちの傲慢さをも引きだし、システム側のミスや落ち度に対して、とても不寛容になつてしまうようです。

こうした状況にあつて「もう少し、関係性を回復させよう!」「いわゆるチキンラーメンのくぼみに着目しようというわけです。わずかな手間や工夫する余地を残してあげる、サッカードラグビーでいえば、ちよつとしたスペースを作つてあげる。(弱いロボット)の研究とは、ロボットと人との持ちつ持たれつ の関係を生みだすための「余白」の研究なのです。

この(弱いロボット)の研究は、縁あつて、今年度から使用されている小学校5年生向けの国語の教科書(東京書籍)に掲載されています。私たちの研究成果がこのような形で社会に生かされるのは、なかなか感慨深いことだと思つていきます。

「書と私」



遠 藤 昌 弘 (碩堂) (高30)

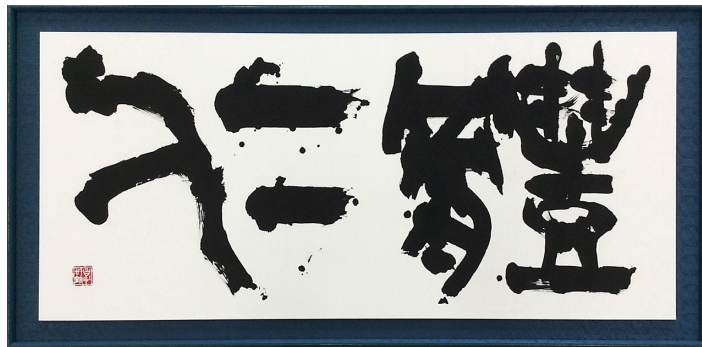
わたくしごとですが、昨年還暦となりました。年齢で言えば六十一歳を迎えたことになりませんが、芸術の世界では若手です。まだまだ道遠く、その道さえも手探りです。わたくしが最も尊敬し、また二十歳の時より十五年にわたり教えを頂いた青山杉雨(あおやまさん)先生は、晩年に上梓された『文字性霊』(二玄社)に「暗中摸索」という書作品を載せて今の心境であると述べられています。先生は文化勲章をご受賞された昭和平成に活躍された大書家であり大芸術家であられました。先生をもつてしても「芸の道に終わりはない」ということを言わしめておられます。ほんとうに芸の道とは終りのない厳しい歩みなのだと感じ入るばかりです。

書歴という大げさなものではありませんが、菲才なわたくしを書の道に導いてくださった先生方に感謝を込めて追想申し上げます。

げます。小学校の三四年のころ、菊地春芳先生の書塾で指導いただきました。先生はいつも笑顔でお声をかけて下さるのですが、わたしはどうも熱心ではなかったようで、たいしたことはありませんでした。中学生は凡庸に過ぎ、書道クラブで手習いしていたほどです。

わたしの生涯の転機となったのは白河高校に入学してすぐ、書道部の顧問をされていた鈴木賢雲(すずきけん)先生にご指導頂いてからのことでした。先生は駒澤大学のご卒業で、日本史を専攻されるかわら書道部で活動されていたことから、書道の世界の話を種々お聞かせくださいました。中学を出たばかりの十五歳の少年は全くの門外漢でしたが、その穏やかな口調にも熱く語るお言葉に惹かれていったものでした。また先生はお若く独身であったこともあって、寝食をともにするほどお

世話になりました。展覧会に出品しようとお誘いで作品を書いたのですが、先生が紙を用意して下さい、「好きなだけ書きなさい」といって見守ってくださいました。大きな硯で先生が墨を磨ってください、わたくしは深更まで書くことだけをしていま



した。ようやく作品が決まりましたが押す印がありません、そうすると翌日には「これを押しなさい」と言って先生ご自身に刻された雅印を頂戴しました。高校三年間の春秋は歳月を待たず、進学の時を迎えます。

このとき先生は「遠藤君、大東文化大学には書道の青山先生がいるから勉強できるよ」とお薦め下さいました。この高校時代の先生との邂逅が生涯の宝となり、今日に至ることになります。白河高校の学恩は、わたくしにとって生涯を導いてくださったもので、いくら深く感謝申し上げても尽きることがありません。大学では、青山先生のご指導を頂きました。ほんとうにここでは吃驚することばかりでした。なにする全国の名だたる書家先生のご子息やご令嬢が大勢いて、みな上手で知識も豊富な人ばかりです。四年間、書道に明け暮れる毎日でした。青山先生は書を芸術であるという考えで指導されており、つねに「自分で考えなさい」「先生の真似をしていてはダメだ」という厳しい姿勢でした。ご自身の作品についても態度は同じで、つねに「一作一面貌」を理想とされ新しい表現を求められておられました。毎週二時間ほどの研究会で百人ほどが、北は北海道、南は沖縄、全国から集まっていました。大勢の参加者が見守るなか一点一点と指導されてゆきます。教場は人であふれていましたが、先生の静かなご批評のお声が、参加者の熱気を突き抜けてゆきま

す。もうこれは指導を受けた人しか実感はできないのですが、みな片言隻句も聞き逃さまいと緊張感がいやましに高まって、自分の作品が出てくるのです。ですから、青山先生のご門下は優秀な方ばかりでした。わたしも一員としてご指導いただいたことは、生涯の誇りであり宝となつて今日に至っています。近年の活動―日展会友・県展招待(審査員・運営委員)・いわき市美展審査員・白河市美展審査員・西郷村美展審査員・読売書法展理事(審査員)・謙慎書道会常任理事(審査員)、明治大学・大東文化大学講師。作品収蔵、白河市(現在、白河文化交流館)展示「朗詠」「體仁」。題字、白河市主催行事『甦る仁のこころ』。著書『もつと知りたい臨書の世界』(匠出版)。大東文化大学中国文学科卒業・筑波大学大学院芸術学科学終了。

*

追記―今年令和二年度の同窓会講演会が、たいへん残念ながらコロナ禍のため中止となりました。今般、同窓会報編集委員会様より拙稿の依頼を頂きましたことに深く感謝申し上げます。また、末筆ながら同窓会の皆様のご多幸を念じてやみません。

母校だより

人事異動

令和二年度の人事異動についてご報告申し上げます。

三月末に田中誠校長先生が定年退職されたのをはじめ、櫻田涉教頭先生が西郷第二中学校校長にご栄転、ほかに十三名の教職員の皆様のご退職・ご栄転となりました。そして、四月一日には、郡山高校から白石文夫校長先生、喜多方高校から安部誠教頭先生をお迎えしたほか、十五名の教職員の皆様を本校にお迎えすることができました。

同窓生の異動は、鈴木敏博先生(高・英語)がご退職され、芳賀太伍先生(高・公民)が茨城県立磯原郷英高校にご栄転されました。また、新たにご転入された先生は、福島東高校から鈴木利栄先生(高・数学)、郡山萌世高校から武井峰保先生(高・数学)のお二人です。

今年度も本校は教育熱心で優れた指導力を持つ先生方をお迎えすることができました。生徒が将来、地域のリーダーとして、

さらには国際社会の中で活躍できる人材足りうるよう、授業はもちろん、部活動や学校生活の様々な場面において、温かくそしてきめ細やかなご指導を頂いているところでございます。



教頭 安部 誠

平成二年度の人事異動により、喜多方高等学校より異動して参りました。専門教科は数学です。自身の採用が白実だったので、白河はとても懐かしく、思い出深い地であります。どうぞよろしくお願いたします。

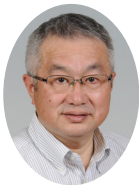
ところで、コロナ禍によりどの学校でも、今までにない対応を迫られています。本校でも四月二十一日から五月三十一日まで臨時休業となりましたが、「SNSを利用した授業」「行事の精選」「長期休業の短縮」などにより、遅れを取り戻し、生徒の進路実現に向け教員一丸となって取り組んでいきたいと思っております。同窓生の皆様方には、100周年事業をはじめとして様々な面でお世話になることと存じま

すが、お力添えをお願いいたします。



教諭 鈴木利栄 (高40)

この四月に福島東高等学校から異動いたしました。母校で教鞭を執りたいと考えていましたが、縁がなく過ぎて参りました。100周年を迎えるこの時期に赴任したのには意味があるのかもしれないと考えております。三十年近い教員生活の中で白河は、能力のある人材がいる割には、目立たないイメージでした。在校生には、もっと広い視野で世の中を観て、自分にプライドをもって自分を成長させるの後輩へ良き伝統を伝えられるようになってほしいと思っております。私も今までの経験を活かして母校の発展に尽力できればと考えていますのでよろしくお願いたします。



講師 武井峰保 (高30)

昭和で都立高校の教員になり、

平成元年に福島県に戻ってきて、令和元年度で退職しました。そして、今年、母校である本校の勤務が実現しました。僅かな期間であっても、共に、数学の問題を解く喜びを分かち合える充実した日々を送りたいものです。

この非常事態を乗り越えて、生徒諸君の目標達成のため、全力を尽くす所存ですので、よろしくお願いたします。

図書館だより

図書主任 野中智幸

図書館においてもコロナ感染予防対策として、入り口にアルコール消毒液を設置し、座席数を3分の2に減らして生徒間にスペースを設け、また手作りながらも飛沫防止の「ついたて」を立てました。少しでも生徒が安心して学習活動ができるよう、環境の整備に努めています。

また今年も同窓会よりご寄付していただき、「News week」、「大学への数学」、「蛍雪時代」「新聞ダイジェスト」など、学問の探究・小論文対策の一助となるよう

な書籍を購入しております。また、同窓生の嶋倉晃様(高1)より、平成元年度から毎年多くの図書を寄贈していただき、「嶋倉文庫」として

総数 四千六百七十一冊 厚志に心より感謝申し上げます。

このような同窓会からの寄付や寄贈により、本校図書館の蔵書は充実しています。こうした恵まれた環境のもとで生徒たちは、読書活動をはじめとして進路実現に向けた学習活動に励んでいます。



進学報告

東北大学に進学して

一組 工藤 英鉄

春から東北大学理学部物理系に進学した工藤英鉄です。正直なところ、まだ大学生になった実感はほとんどありません。この世の中の状況では仕方ないとは思いますが、入学式は中止になり、大学の同級生とは顔も合わせたことなく、また対面での新歓やサークル活動などは一切禁止されていて、僕に至ってはいまだに実家暮らしを続けています。しかし、そのような状況に愚痴を垂れていても仕方がないので、できることに目を向けましょう。

私は現在「物理の会」という物理を勉強する自主ゼミサークルに在籍しています。やはり自分から物理の自主ゼミサークルに入るような人は興味深い人が多いです(笑)。直接会うことは出来ないのですが今はZoomやskypeなどを使って会話をしているのですが、分からない問題などを永遠と議論出来る仲間が出来たのはとても良かったです。また自主ゼミサークルなので当然ゼミをするのですが、最初はテキストの内容を自分なりに解釈して他人に伝えるという作業にかなり苦戦しました。また授業の課題と

してのレポート作成や英語でのプレゼンテーションなど、相手に自分の考えを伝えることの重要性に気が付きました。

またオンライン授業になったこととでよかった面もあります。例えば、授業動画がアップロードされることでいつでも好きな時に見ることができ、また巻き戻しもできるのでよく理解できなかった点の復習も簡単にできます。私の所属する大学はオンライン授業への移行がかなりはやく、環境としては恵まれている方だと感じました。

今後COVID-19が収束してもオンライン授業と対面授業を併用すること、よりよい学習環境を新しく作ることができればいいと思います。

最後になりますが、ここまで読んでいただきありがとうございます。今後大学受験がどのようなように変化していくかはわかりませんが、核となる基礎がしっかりとしていればどんな形式にも対応できると思います。人生に一度しかない高校生活を存分に満喫し、充実した生活を送って頂ければ幸いです。

念願の東北大学に

進学して

一組 藤田 沙己

受験生活が終わり、志望校に合格して前半が経とうとしています。

す。今年は新型コロナウイルスにより未だにキャンパスへ通うことができず、非常に特殊な状況を強いられています。それでも毎日が楽しく、充実しているように感じられます。

まず、講義が非常に興味深く、自分の視野を広げてくれます。例えば、私は「Memento mori」を想え」という授業を履修してありますが、これは宗教学や法医学、生物学など様々な角度から死について考えるオムニバス形式のもので、毎回先生が変わります。ゆえに、話し手が住職や周産期で子どもを亡くした母親となるときもあり、死について多面的に見つめ直すことができます。また「人文社会総論」という授業もオムニバス形式で、文学部の心理学や考古学など25専修の内容や研究成果について、各々の学問の教授により幅広く総合的に学ぶことができます。

東北大学だからこそそのカリキュラム編制を通して、知識や教養を身につけていく大学生活は非常に有意義で楽しいものです。

大学生活を送る中で、課題も見つかりました。大学生になると、レポート課題やプレゼンテーション課題が課されます。これは、自分の考えを自分の言葉で論理的に表現するものですが、私は今まで読書をしてこなかったせいか、文章力や読解力が不足していて、説得力のある文章を書けずにいます。

私は読書をしてこなかったことを後悔すると共に、これを読んでくれる皆さんには、読書を推奨します。大学生活はある程度時間にゆとりがあるため、これからはあらゆるジャンルの本を沢山読むようにしたいです。

また、大学生になると自分で進んで情報収集しなければなりません。何のアクションもせず、待つだけの間にか遅れてしまいます。これは、受験にも通じる所があると思います。受験生の皆さんは、分からないことがあったら躊躇せず先生や友達に聞いてください。

私は受験期に沢山辛い思いや苦労をしたからこそ、心から楽しいと思える大学生活を送ることができています。受験生活が終わった後に自分を振り返って、心からやりきったと思えるくらい、最後まで粘ってください。

お茶の水女子大学に

進学して

二組 吉田 梨花子

こんにちは。私は現在、お茶の水女子大学理学部物理学科に在籍しています。入学からまもなく半年が経過しますが、私はまだ大学構内で授業を受けたことがありません。前期の授業は全てオンラインで行われました。大学という新

しい環境での生活に胸を膨らませていたため、とても残念でした。すべてのオンライン授業は、Zoomというアプリケーションを使って行われました。撮影の危険があるため、学生はビデオをオフにして姿を映さない授業が大半でした。

適度な緊張感を生んだり集中力を高めたりする周囲の視線が無いことに、今の大学生活への不満がプラスされ、意欲的に授業に参加することが難しかったです。授業によつては、指名され発言することもありました。ですが、私の発言を待つ無音のパソコンに向かって話し始め、聞き手の表情や反応が分からないな意見述べることがとても不安でした。毎回の授業で課題が出る科目が多く、提出してもまたすぐに新たな課題といった毎日でした。大学に行けないため同級生に会ったこともありません。しかし、学生間の交流が全くないのかというとそうではなく、Zoomを使用し物理学科の生徒だけで何回か顔を合わせています。

オンラインではありますが、同じクラスの子と話せることにとても喜びを感じています。このZoomの開催のおかげで、授業のモチベーションも上がりました。クラスの過半数が参加するZoomを頻繁に行えることは、規模の小さい大学ならではの良さだとも思いました。

今年が入学式の中止、オンライン授業の実施、文化祭のオンライン

開催といった異例の事態となり、思い描いていたものとは全く違う大学生活を送っています。一年生の半分を自宅で過ごしたと考えると、悲しくなります。しかしこのような状況が初めてだからこそ、工夫できる点や改善点が数多く見つかると思います。この半年での経験を無駄にせず、これからの有意義な大学生活へ生かしたいと思っています。

埼玉大学に進学して

六組 高根沢 開登

私は埼玉大学工学部応用化学科に在籍しています。この場では本来大学生活をどのように送っているかを書くべきなのですが、ご存じの通り現在、世界中に蔓延る新型コロナウイルスの影響で大学の授業が全面オンライン授業となり、一度もキャンパス内に足を踏み入れることができていません。

大学では周りのレベルが高く自信を失ったり、刺激を受け一層勉強に励んだり、サークル活動等を通して友達を作り遊びに明け暮れる日々を想像していました。しかし、実際には毎日パソコンの画面越しに講義を受け、用事のない日は一日中家から出ず、家族以外誰とも会わない生活をしています。

大学の講義は高校授業とは違って、受験に向けた内容ではなく生活を豊かにするための教養を学ぶことができます。それに伴って授

業のレベルも高くなります。オンラインのため課題が多く出され、大学に行けていないため学友がおらず、独力で解決するしかなく、神経がすり減る日々でモチベーションを保つのも困難になっています。つらい受験期を乗り越えて、人生の春となる大学に進学することはできましたが、現状は全く大学生活を謳歌できず、何度も普通に大学生活を送ることができたらと思います。しかし、願ったところで事態は好転しないので考え方を転換し、この来春まで続くオンライン期間を自分磨きの期間と考えようと思いました。

前述のように大学がオンラインということはサークル活動や友人と遊びに行くといったことに時間をかけることができません。しかし、その自分分の時間が多くあるということになります。大学一年生は今後の大学で学習する際の基礎となることを多く学びます。そのため、その基礎を疎かにしないためにも、時間を有効に使ってきたいと思っています。

このご時世、生活にすらさや憤りを感じる人は多いと思います。私もこのような未来を思い描いてはいませんでした。そして、大学に通えるようになったら一層キャンパスライフを楽しむといったように、今を悔やむのではなく未来を見据えて頑張りたいと思っています。

部活動報告

コロナよりも強い三年生

剣道部顧問 菅野真平

平成二十二年度から令和元年度までの十年間、佐藤裕展先生の全国トップのご指導により白河高校剣道部は福島県のトップをひた走り、全国でも名の知れる強豪校となりました。

その佐藤先生に育てられた現三年生(女子四名)は、常にチームの主力として活躍し、昨冬の全国選抜剣道大会出場を勝ち取っていました。全国大会優勝を目標にすべてを捧げ、苦しい経験を何度も乗り越えてきた一人ひとりの努力により、全国大会前に行われた東北大会では、全国優勝候補のチームに大接戦を繰り広げ準優勝の成績を残していました。全国大会優勝も現実味を帯びてきたその時、新型コロナウイルスの影響で大会は中止。その後のインターハイも中止。現三年生にとって全国大会優勝のチャンスがすべて奪われ、心に大きな穴が開いてしまいました。

誰もが落ち込む中、ここまで頑張ってきた生徒の努力を無駄にしたいわけないと、前任の佐藤先生や全国の有志の先生方が立ち上がり「手作りの全国大会」を今年冬の開催する事が決まりました。全国各地の三年生に、もう一度仲間と戦える希望が見えました。



その影響もあり、現在の剣道部三年生四名は、前を向く事が出来たように思います。

まずは、今まで握っていた竹刀をペンに持ち替え、進路勉強に励んでいます。剣道と同じように、毎日懸命に努力しています。

また、時間を作り冬の大会に向けて剣道にも取り組んでいます。もう一度この仲間と一緒に戦える事や残された期間で後輩に伝えられる事等、今までは異なる意味を持った取り組みをしています。新型コロナに負けず、その中で価値を見出した三年生は頼もしく、本当の意味で強い人間だと感じます。また、前を向くきっかけを与えて下さった方にとっても感謝しています。

冬の大会に向けて頑張っている3年生について

サッカー部顧問 佐藤大輔
令和2年度の白河高校サッカー



部は3年生・選手14名・マネージャー13名、2年生・選手10名・マネージャー2名、1年生・選手12名・マネージャー3名の44名での活動となりました。コロナウイルスの影響により4月21日から学校も臨時休校となり、サッカー部としての活動は6月8日の活動解禁となった日まで活動自粛。その影響もありインターハイについては地区大会から中止となってしまいました。その中で、冬の選手権を前に部活動を引退した3年生が1名いました。マネージャーも含め16名の3年生が選手権までの活動を決意し部活動を継続しています。6月の下旬からは対外試合も可能になり、少しずつ実践形式の練習にも取り組まれました。例年4〜9月で行われていた福島県サッカー1部リーグ(通称F1)も今年度は9月からの5節分の縮小開催となり、本当の意味での公式戦は選手権予選のみという状態です。な

かなかモチベーションを保ちにくい状況ではありますが、現在選手権予選に向けて過去最高成績を目指し日々トレーニングに励んでいます。例年夏休みを利用して県外への強化遠征・合宿を行っていましたが、今年度は感染防止もあり県外への遠征も自粛しました。そのような中、選手権に向けてできることは何かを考え、「走り合宿」を塙町の山中にて2泊3日で実施しました。35度を超える炎天下の中でしたが、1周23キロの登り下りのロードを3日間で50キロを超える距離を走りきりました。

最終日にはいつもお世話になってる保護者とソフトボール大会を実施し親睦も深めました。現在、今年度まだ実施される可能性のある選手権予選に向けて最後のチーム作りに励んでいます。合宿で培った走力とチーム力をさらに高め3年生最後の公式戦に悔いなく臨めるよう頑張ります。見ている人にも感動を与えるサッカーで頑張りますので応援よろしくお願いたします。

登龍健児ここにあり

男子バレー部顧問 鈴木晃夫

現在、男子バレーボール部は3年生4名、2年生4名、1年生4名、マネージャー5名が所属している。少人数であるが目標達成に向け、日々の課題を解決するべく一生懸命練習に打ち込んでいる。そんな中、新型コロナウイルス



感染症の影響で福島県高等学校体育大会、FTV杯予選を兼ねた福島県総合体育大会が立て続けに中止となり、目標を見失った状態で練習再開を迎えた。3年生にとつては今までの成果を発揮する場がなくなってしまうことのやりきれなさは計り知れないものであったと思う。

しかし、3年生をはじめとする部員たちは日々の練習で培った精神力とバレーボール愛で、先のないこの状況でも今やれることに対し前向きに一生懸命取り組んでいる。

残された時間はわずかだが、いろいろなものを乗り越えてこまめ頑張ってきたのだから、どんな結果になっても悔いはないし、得られるものも大きいと思う。

まず9月の大会は、3年間の思いと「登龍健児」を胸に全力を出し切り、「登龍健児ここにあり」を体現し、大暴れしてほしい。

8月に執筆しているこの原稿が発行されるころには結果が出ているが、期待と不安を胸にバレーボール部の紹介を終えたいと思う。

「第23回定期演奏会」を振り返って

吹奏楽部顧問 佐藤恵一

白河高校吹奏楽部第23回定期演奏会が令和2年8月16日に白河文化交流館コマネスで開催されました。

今回の演奏会を開催するにあたり、特に3年生7人は様々な葛藤がありました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、6月14日に予定していた演奏会を予定通り開催すべきか、中止すべきか、延期にすべきか大いに悩んだのです。話し合いの結果「自分たちの定期演奏会は何としても開催したい」と、演奏会の準備と進路実現に向けた学習との両立を考えたときに、この8月16日が限界として延期して開催すると決めたのです。そんな中、目標としていた吹奏楽コンクールも中止となり、3年間の活動の集大成として聴いて



いただきながら予定通り開催いたしました。この紙面をお借りしてお手伝いいただいた皆様に改めて心より感謝申し上げます。

会場には定員半数近くの400名を超えるお客様をお迎えし、演劇部の賛助出演と生徒の精一杯の演奏、そして会場内の温かい雰囲気の中で演奏会が進み大きな拍手をいただきました。ロビーでは来場した多くの皆様から「素晴らしい演奏、演出に感動しました」「コロナ禍で憂鬱でしたが心に潤いをもたらしました」「一人一人の生き生きとした姿に元気をいただきました」など、温かい言葉をかけられた生徒たちは「頑張ったよってよかったです」と満足感で一杯の表情だったのです。

様々な制限や葛藤のある中で、目標に向かって努力を続け実を結ぶことができた生徒諸君に顧問として心から敬意を表すると同時に、今回の経験が今後の人生の糧となることを心から願うところです。

これからも、自分たちの演奏会やコンクールだけでなく、地域に貢献できるよう生徒とともに有意義な活動を続けていきたいと思っております。今後とも同窓会の皆様のご支援をよろしくお願いたします。

福島2020夏季高校野球大会を終えて

野球部顧問 渡邊康介

2020年は、選手たちにとつ

て特別な夏になりました。新型コロナウイルスの流行により、本校では3月から5月までの一部の登校期間を除けば約10週間の臨時休業期間がありました。思い返せば、秋は県南支部予選で敗退し、県大会へ出場することができませんでしたが、そこから「意識改革」をテーマとして冬の厳しい練習を耐え抜き、ミーティングを重ねた結果、選手たちは日を追うごとにたくましく成長していき、必ず夏に大成すると思っていました。その矢先の新型コロナウイルスの流行により、これからのという時に練習がでない日々が続きました。しかし、選手たちはそのような中でも毎日個人での練習やトレーニングを怠らず、勉強や家事手伝いなど1日1日を精一杯過ごしていました。

5月20日、夏の甲子園大会の中止が決定し、このまま引退かと思われましたが、福島県高野連の県独自の代替大会を開催するとの決定を受け、もう一度全員で最後までやり抜くと選手たちが決意して6月8日から部活動を再開しました。不幸中の幸いかわかりませんが、選手たちの動きは以前より良くなっており、今まで以上に1つのことをやり抜こうという姿勢と意識が芽生えていました。

7月23日、初戦のいわき総合高校さんとの試合は、3年生7人全員が先発出場し、夏の代替大会が始まりました。1人1人が次の打者へつなぐという意識で試合に入ることができ、9対2（7回コー



ルド)で勝利しました。25日の湯本高校さんとの試合では、投手陣が踏ん張り、打線も少ないチャンスを生かし5対0で勝利し、2年ぶりのベスト16が決定しました。8月1日は夏の県大会13連覇中の聖光学院さんとの試合でした。先制点をとるも追いつかれるという展開の中で、終盤に得点を重ねられて3対7で敗戦しました。

今回の代替大会までの期間、選手たちは逆境を言い訳にせず力に変えてくれました。白河高校は野球だけではありません。高校野球は終わりましたが、これからの大学受験に向けての勉強もあります。高校野球を通して学んだこと、当たり前だと思っていたことが全て幸せなんだということ、そしてたくさんの人に支えてもらって生きているという思いを胸に、今後も飛躍し続けていってほしいと願っています。

支部だより

未来に続け!

東京登龍会

登龍会会長 遠藤泰司(高9)

東京登龍会は昭和62年白河高校同窓会の東京支部としてスタート、今日まで首都圏における白河高校同窓生の親睦の会として、多くの同窓生の首都圏における拠り所となっておりま。

総会は隔年開催で上野精養軒にて開催しております。総会には白河から同窓会長・校長先生をはじめ多数の来賓の皆様をお迎えしております。総会が隔年開催では昨今の時勢では間が空きすぎるとの皆様の声があり、総会の合間の年には大同窓会を開催しております。(大同窓会の会場は本郷三丁目・ホテル機山館)

総会・大同窓会とも最初に校歌を斉唱します。出席者は久しぶりの母校の校歌を大きな声で歌います。校歌は第2代校長工藤正勝先生の作詞、音楽界の泰斗岡野貞一先生作曲の名曲です。総会では1番2番又は3番、懇親会では肩を組んで1番4番を歌います。歌詞に込められた工藤校長の生徒への激励と、抒情あふれるメロディーの優美さはまさに日本一の校歌です(令和元年の白河市における同窓会総会での29回生の挨拶から)。

2番3番の歌詞には南湖をはじめ白河の名勝地が歌い込まれ、入学した登町の龍がさらに大きく飛躍する姿を歌っています。

「嗚呼蛟龍の伏す処、

茲に五彩の雲ぞ湧く」

東京登龍会ではHPを運営しております。日本画家今井珠泉先生(中22)の珠玉の作品の数々をご覧いただけます。白河高校校歌のコーナーでは歌詞・楽譜を掲載しています。会の運営についてはHPで行事開催の都度紹介しております。

総会・大同窓会ともに講話をお願いしておりますが、各界で活躍の同窓生の素晴らしい講話を頂いております。最近の講話をされた皆様のご芳名と主な経歴を記します。



- | | |
|-------|---|
| 平成17年 | 鈴木 幸壽様 中13 |
| 平成19年 | 東京外国語大学学長 金田 幸三様 中20 |
| 平成21年 | 株式会社ニチレイ社長 鈴木 晟司様 高10 |
| 平成23年 | 昭和大学医学部教授 人見 信男様 高20 |
| 平成25年 | 警察庁交通局長 田口信太郎様 高20 |
| 平成27年 | NHK経済部長 双石 芳則様 高20 |
| 平成29年 | 航空自衛隊那覇基地司令 竹内 和久様 高26 |
| 平成30年 | 宏人会木町病院院長 植村 美洋様 高27 |
| 令和元年 | 白河高校教諭・「白河大戦争」著者 佐藤 公彦様 高20 |
| | 東京外国語大学教授 人見信男様は平成24年10月白河校90周年記念式典で記念講演をされました。 |
| | 演題は「輝く未来を君の手で!」でした。出席した在校生に多くの感動を与えました。 |
| | これまでの東京登龍会会長は初代鈴木幸壽様(中13) 第二代伊勢崎幸一様(中17) 第三代金田幸三様(中20) 第四代人見信男様(高20) 平成29年から第五代遠藤泰司(高9回)です。 |
| | 当会では、同窓生相互の研鑽と懇親のため、諸行事を開催しています。このため企画委員会を設置し各年代の意見を取り入れております。登龍会フォーラムでは各界 |

で活躍する同窓生の貴重なお話を伺っております。また夏季懇親会・納会にも多くの同窓生が参加しています。

白河高校は福島県の県南に位置し首都圏に近く、多くの卒業生が首都圏に居住しております。総会・大同窓会では春の新卒業生を招待しており、学生の出席者が増えています。また、再度の共学後の1期生が平成12年3月に卒業しましたが、女性の出席者も年々増えております。東京登龍会の開催する行事は同窓生のどなたも出席できます。

東京登龍会は、コロナ禍の多大な影響を受けており、6月に予定した大同窓会を中止しました。歩こう会、登龍会フォーラム、広報委員会などの活動や諸会議も、集まることのできないので、書類・電話やメールでの連絡体制となりました。会員のお顔を拝見してお互いの無事を確かめることもできないのは、まことに辛いところです。まだ効果的なワクチン開発・普及まで1年から2年は、感染対策の影響下での会運営となるとみられますが、頑張つてまいります。来年5月23日は東京登龍会の総会を開催します。多数の皆様のご出席をお待ちしております。

開催予告
東京登龍会総会
令和3年5月22日(土) 11時開会
上野精養軒にて

西郷支部の総会

支部長 金澤隆夫(高23)

西郷支部においては、7月21日に役員会を開催し、令和2年度の総会開催について協議いたしました。その結果、新型コロナウイルスの感染拡大が続いている状況から例年8月に開催している総会及び懇親会については、中止せざるを得ないと結論に達し、その旨を関係する会員に通知いたしました。合わせて、令和元年度の事業



昨年の懇親会

報告・決算報告並びに令和2年度の事業計画・予算、役員改選について専決処分を行い、会員にお知らせいたしました。毎年開催される総会及び懇親会を楽しみにされてきた会員の方々には、大変申し訳なく存じますが、高齢の会員の出席が多い状況を考慮すれば、致し方ないものと判断いたしました。さて、西郷支部の総会には、毎

年20数名の会員が出席していただいておりますが、年齢が若い会員の出席が少ない状況となっております。これは、同窓会関係ばかりでなく各種のOB会なども同様の傾向にあります。母校白河高校の創立100周年も控えておりますので、働きかけを行って出席する会員が少しでも増えるようにしていきたいと考えております。

なお、西郷支部におきましては、白河高校の創立100周年に向けて昨年度から積み立てを行っております。

棚倉支部の総会

支部長 藤田昌美(高18)

棚倉支部の臨時総会を、令和2年2月5日(水)に会員22名の出席のもと、新富家で開催致しました。支部総会が諸般の事情でしばらく開催できず、今回の臨時総会となりました。

はじめに、宗田利八郎前支部長ら物故者に対し黙祷、その後校歌を斉唱。

議事では、会員の連絡方法として携帯電話のショートメールやSNS等も利用すること。今年の秋に正式な総会を開催することなどを決め、新役員選出後、懇親会を催し親睦を深めました。

役員は次の通り決定しました。

支部長 藤田昌美

副支部長 小原康宏

藤田智之

事務局 鈴木一彦、石川隆之

以上、報告といたします。
令和二年七月

支部長 藤田昌美

塙支部の総会

支部長 生方良一(高27)

塙支部は平成15年に発足いたしました。当時は会計を任せられ、参加者の中では最年少でした。総会だけは毎年欠かさず開いております。会場は会員で前事務局長の早田研司さんが経営する無心亭「花屋」と決まっております。楽しみは、総会終了後の懇親会です。皆さん酒豪が多くいつもお酒が足りなくなってしまう。時折ゴルフコンペを実施したり、有志による交流会を行ってきました。近年は、40代の参加者もあり若返ってきております。いつの日か女性の参加者が現れることを期待しております。

白河高校同窓会

矢祭支部便り

支部長 木村芳朗(高19)

矢祭支部は長らく有名無実の存在だったが平成24年総会開催、新役員選任し活動が開始された。しかし2年ほどで活動がしぼんでしまい、再び長い休会同然の状態になってしまった。

だが今年令和2年2月15日総会にこぎつけ新役員選出し、盛大な懇親会より新しい活動が始まった。しかしながらコロナ感染症の猛威により活動が制限されている。10月には矢祭支部の総会が予定されているので何とか開催したい。それができないとまた長い休会の悪夢がよぎる。そのようなことがないように頑張りたい。

来年度総会のお知らせ

先日の同窓会三役会において、来年度の同窓会総会の日時と会場が、左記の通りに決定しましたので、お知らせします。

期 日 令和三年

五月十五日(土)

講演会 十六時〜十七時

総 会 十七時〜十八時

場 所 東京第一ホテル新白河



近況だより

人生の分岐点で

佐藤厚潮 (高30)

私は今年還暦です。西郷村で生まれて、白河高校を卒業して、たくさんの分岐点を通って今に至っています。大学は中国語を学びたくて東洋大学を選びました。その後中国に留学し、同じ中国語を学んでいた女性と結婚しました。そしてその時にお世話になった人に恩返しができる話になった人に憧れる外国人留学生に日本語を教える学校を、サラーマンを辞めて故郷西郷村に設立しました。

ただ中国人は原発事故以来、福島県を敬遠しているのです、今はネパールやベトナムの学生が殆どです。彼らは日本に憧れて僅かなお金を握りしめて日本にやってきます。そんなアジアからの留学生が日本で夢を掴むには、まず日本語を習得しなければなりません。なぜなら言葉は文化の入口であり、いい仕事を獲得成功を手にするには不可欠だからです。今私は青年に夢を与える仕事をすることができ、人生の分岐点で選択した道は、間違っていないと確信しています。

人生の分岐点で

君島正信 (高30)

私達第三〇回卒業生が同窓会総会幹事を務めるという節目の年、コロナで異例の中止とは全く不測の事態である。

鈴木次夫氏を代表に佐藤厚潮幹事と共に準備を進め、八組までの全クラス代表に計画を承認してもらうまでに至り、記念講演は岡田美智男君の「弱いロボット」だから出来ること」これは今年国語の教科書に載ることとなった話。次に遠藤昌弘氏による書道の実演。彼はコミネス等に作品展示もあるが、一昨年の戊辰百五十年甦る仁の心でも画数の少ない「仁」の一字で見事に行事趣旨を表現した事が記憶に新しい。幻となった総会ではあったが、先輩方に習い準備し、同級生達と共に久しぶりに母校行事に向き合えた事は既に新たな頁となった。

後援会入会のおすすめ

後援会会長

櫻井和朋



(高12)

令和2年4月25日に実施予定の第17回後援会総会はコロナウィルス感染拡大により中止を余儀なくされました。総会で審議する予定

表紙の作品について



遠藤 昌弘 (碩堂) (高30)

「朗詠」は、孫綽の「遊天台山賦」にある言葉ですが、古来より『和漢朗詠集』があるところ、詩歌を詠ずる、の意味でした。書体は、中国周代の古代文字で、青銅器に鑄込まれた「金文」というスタイルです。

白河市は、平成28年(2016)「コミネス」という音楽また演劇

ののための市民の殿堂を建設しました。県の内外から多くの演奏家や演劇人、またそれを鑑賞する人々が集つ、県内屈指の施設です。書は、視覚芸術ですが、その出発点は、さきほどの『和漢朗詠集』のとおり、詩歌を詠じ、自然や感動を歌い上げるものでした。そして、それを書き留めたものが「書」になりました。いまでこそ、音楽・演劇・書と専門性が追求されて、それぞれが芸術となりましたが、本源は「朗詠」に源を発するものです。白河市の文化発信に、つよく触発されて言葉を選び、揮毫しました。

叙 勲 等

令和元年初の叙勲

- 旭日小綬章 小野 利 広 (高20)
- 旭日双光章 橋 本 登 行 (高12)
- 瑞宝双光章 伊 藤 涉 (高20)
- 2019秋高齢者叙勲
- 双石 義 資 (高2)
- 熊 田 忠 (高2)

訃 報

- 眞船 英夫 (中18) 令元・9・23
- 斎藤 武 (高10) 令元・10・27
- 横村 昭司 (中23) 令元・12・12
- 安田穰次郎 (高7) 令2・2・5
- 大越 吉雄 (中20) 令2・3・2
- 安田弥一郎 (中12) 令2・7・11
- 穂積 良行 (高5) 令2・7・26
- 池田 三郎 (高9) 令2・8・6
- 平澤 敏雄 (中24) 令2・9・16

(叙勲、訃報は学校内同窓会事務局にご連絡のあった方々をお載せしました。)

『創立100周年記念事業 実行委員会設立総会開催』

去る九月二日(水)、福島県立白河高等学校創立100周年記念事業実行委員会」の設立総会が東京第一ホテル新白河にて開催されました。設立母体である学校・保護者と教師の会・白河高校後援会・及び白河高校同窓会の4団体より91名が出席、保護者と教師の会の宗田浩一副会長(高43)の司会進行のもと、中村彰同窓会副会長(高20)が開会を宣言し開始されました。

主催4団体の各会を代表し、実行委員長である鈴木雅文同窓会長(高28)、白石文夫校長、櫻井和朋後援会会長(高12)(都合により欠席)の為、メッセージを代読)、須釜俊男保護者と教師の会の会長(高40)が挨拶を行い、来賓を代表して、鈴木和夫白河市長(高20)、満山喜一福島県議会議員(高22)、三村博隆福島県議会議員(高41)からのご祝辞をいただきました。

続いて、金澤隆夫同窓会副会長(高23)を議長に選出し議事に入りました。

まず横村勝己同窓会事務局長(高37)より創立100周年記念事業に向けてのこれまでの取り組みについて、実行委員会の規約及び組織についての説明があり、それぞれ承認されました。

次に、実行委員会の役員選出が行われ、事前の実行委員会設立準備会から選出していた鈴木雅文実行委員長を除く、副委員長9名、監査5名が選出されました(後記に総会選出の役員を掲載)。続いて、実行委員長による委嘱となる役員(案)及び専門部会員の(案)につい

ての説明がなされ、承認されました。

次に、横村氏から記念事業の事業計画案並びに予算案(後記に掲載)が提案され、承認されました。議事終了後には、委嘱状の交付式が行われ、鈴木雅文実行委員長より各専門部会員の代表として各部会長並びに編集委員長・編集副委員長へ委嘱状が交付されました。

その後、一旦、専門部会毎に分かれて、各部会員への委嘱状の交付並びに今後の取り組み方法や予定等を確認する専門部会議が行われた後、再度、全体会にて、専門部会毎の今後の方針等の報告が行われました。

最後に、須釜氏が閉会を宣言し、設立総会を終了いたしました。

総会選出の実行委員会役員

実行委員長	鈴木 雅文 (高28) 〇
実行副委員長 (募金部会長)	中村 彰 (高20) 〇
実行副委員長 (記念事業部会長)	金澤 隆夫 (高23) 〇
実行副委員長 (記念誌編集部会長)	石塚 次男 (高26) 〇
実行副委員長 (同窓会簿部会長)	横村 勝己 (高37) 〇
実行副委員長 (式典部会長)	須釜 俊男 (高40) 〇
実行副委員長	宗田 浩一 (高43) 〇
実行副委員長	高内 慎介 (高46) 〇
監 査	金内 貴弘 (高40) 〇
〃	松田 優之 (教頭) 〇
〃	有賀 茂晴 (高28) 〇
〃	鈴木 茂久 (高29) 〇
〃	芝澤 浩 (高39) 〇
〃	鈴木 夕子 〇
〃	安部 誠 (教頭) 〇

※〇：同窓会、◎：保護者と教師の会

事業計画並びに予算

実行委員会には、5つの専門部会(同窓会名簿部会・記念誌編集部会・記念事業部会・式典部会・募金部会)を設置し、以下の事業計画の具体的な取り組みを進めていく。

1. 同窓会名簿部会：先行して同窓生名簿の確認作業に着手し、令和2年1月に新「同窓会会員名簿」が完成しており、未購入者への販売を計画。
2. 記念誌編集部会：部会内に「編集委員会」を設け、編集委員長に大岡清一氏(旧職員)、編集副委員長に植村美洋氏(高27)、佐川庄司氏(高27)、添田恒夫氏(高28)の3名が就任し、記念誌の発行やDVDの作成を計画。
3. 記念事業部会：「登龍会館の大規模改修」と「マイクロボスの導入」を記念事業の目標に掲げるとともに、100周年の前年、令和3年には、「プレ100周年」として生徒達が参画する記念式典部会を計画。
4. 記念式典部会：令和4年10月の開催を目標に、記念講演会及び記念式典・祝賀会を計画。
5. 募金部会：予算総額一億一千五百万円(協賛金一千五百万円、寄付金一億円)の到達の為、募金の目標金額を一億円に掲げ、令和3年4月頃より募金活動を開始する計画。

『資料収集へのご協力をお願い』

記念誌を編纂するにあたり、本校に関する写真や雑誌等(生徒会誌「関河」・「白河高校新聞」など)の資料を集めておりますので、歴史的な写真や資料をお持ちの方に本校で協力をお願い致します。特に、本会が所蔵していない年度の「卒業アルバム」・「関河」等(詳細は後記)をお持ちの方がおられますら、是非一報下さいませよう

お願い致します。お預かりしました写真・資料につきましては、デジタル化(コピー)した後、出来るだけ早く御返却致しますので、同窓会事務局に直接お送りいただくか、電話にてご連絡下さいませようお願いします。

本校図書館で未収蔵の資料

- ①『卒業アルバム』
昭和3年3月卒(以下、3月卒は省略)、昭和4年、6年、7年、9年、12年、14年、24年、26、27年、32年、43年、53年
- ②『関河』(白河中学学友会誌)
昭和元年度(第1号)、昭和3年度(第3号)、昭和19号(第19号)が発行されたかどうか不明
- ③『学校要覧』
昭和47年度、昭和48年度
- ④『白河高校新聞』※戦前は白河中学新聞として刊行されたかは不明
昭和元年度(第1号)、昭和59年度(第118号)、昭和61年度(第122号)、第123号、63年度(第126号)、平成4年度(第137号)、12年度(第158号)、第159号、16年度(第169号)、17年度(第173号)、19年度(第189号)、第179号(第186号)、23年度(第189号)、24年度(第191号)

同窓会事務局

住所 千九六一〇八五一

白河市南登り町五十四
福島県立白河高等学校
同窓会事務局
〒〇二四八・二四・一一一六
(担当：高田良二)

編集後記

・今年も各地で豪雨による甚大な災害が発生し、コロナウィルスは世界中で、私たちの日常生活はじめ学校の授業や行事そして経済活動にも深刻な障害となっております。この厳しい情勢の中、母校の創立100周年記念事業実行委員会設立総会が開催され本格的に始動致しました。

同窓生先輩諸兄弟の皆様には、多大なご支援、ご協力をお願いすることになりますが、心からよろしくお願ひ申し上げます。

会報編集委員会

- 会報担当 金澤 隆夫(高23)
- 同窓会副会長 堀川 哲雄(高15)
- 編集委員長 堀川 安夫(高22)
- 編集委員 瀬戸 勝己(高37)
- 事務担当(学校) 高田 良一(高32)
- 〃 〃 〃 大竹 儀一(高31)
- 〃 〃 〃 鈴木 諒(高67)
- 〃 〃 〃 本田 弘子

賛助金納入のお願い

会報第一四二号を高52回卒業までの皆様にお届けします。皆様よりお寄せ頂く賛助金は、三頁の予算・決算書にご覧頂きますように、本会の活動と母校への援助のために使われます。令和元年度は二、一六七、三九二円をご協力頂きました。感謝申し上げます。

郵便振替番号
〇二一〇〇一四一二七七四
加入者名
福島県立白河高等学校同窓会

上げます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。
賛助金は 一口一、〇〇〇円
できるだけ二口以上でのご協力が
ください。